平成 18 年 4 月号　№ 354

なかま

発　行
佐倉市立中央公民館
なかま編集係
〒285-0025
佐倉市鏑木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ　六人の孫娘たち …… 鈴木　伶子　こどもの目線…… 原　桂子
3 ページ　地球の砂漠化・温暖化（年頭に思ったこと）…… 飯嶋　隆哲　雪の朝 …… 清澤　瞳子

佐倉市民ハイキング考

石崎幸助

以前から「佐倉市民ハイキング」が毎月一回あることは、市の広報を読んで知っていた。参加してみたいが一人で行っても大丈夫かなと躊躇していた。しかし、昨年の暮れ、思いきって参加してみて、その心配は見事に払拭された。

集合場所に顔を出すと、世話役の方が当日のコース案内と『なかま』を手渡してくれた。また間髪を容れず、別の人から「傷害保険」の申し込みの用紙が渡された。記入事項は少なく、直ぐ書け、申し込みは完了した。最初のこの二コマで、心配していた一人参加の不安はかなり和らいだ。また、出発までの手持ち不沙汰もコース案内、『なかま』を読むことで潰すことができた。

出発時間が近付くと代表等の挨拶、当月のコース説明、準備体操と続いた。この準備体操も冗談を混えて、参加者をすっかりリラックスムードに引き込んだ。出発までのこれらの一連のセレモニーで、何となく永年のハイク仲間になった気にさせられた。

合唱のひととき

ハイクそのものはコースの途中、途中、適切な距離ごとに、史跡見学やトイレ休憩を折込み、その都度、簡易な説明があり、疲れず、だらけず粛粛と進行した。

感動的なのは昼食後出発前の全員による青春歌の合唱。先輩の弾くキーボードに合わせた若き頃の思い出に満ち溢れた青春歌の合唱は、寒さを忘れて、青春を彷彿させた。四季の歌、早春賦、寒い朝、いい日旅立ち等等。老いも、若きも、上手、下手を超越して、しんみりと声を合わせる。誰も批評しない。文句も言わない。普段は小っ恥ずかしくて合唱なんてという族（やから）も黙黙と声を合わせる。最高だ。

春も近付き次のハイクが待ち遠しいが、初心者なりに一つお願いをしたい。それは一人参加者の昼食場所の確保。一人でお弁当をポツンと食べるのは何とも味気ない。もし昼食コーナー的な場所があったら、なお参加し易いと思うが。

市民ハイキング、一人で参加しても楽しかった。その後も毎月参加させてもらっている。気候が良くなってきたので、これからの催行が益々楽しみである。（編集委員）

六人の孫娘たち

我が家には、二人の娘と六人の孫娘がいる。何故か男児には恵まれず、女系家族である。主人や婿殿は、ひとりでも男の子をと切望したが、成人後は、むしろ女の子のほうが頼りがいがあるのではと、諦めの境地であった。

長女は米国ニューメキシコ州在住。十歳～三歳の四人。次女は市内で十一歳と七歳の二人の子持ち。

二年に一回は、全員集合できるよう努めている。

近くに住む孫たちは、体育大好き、宿題をさっさと済ませて、ゲームに夢中、爺婆（ジジババ）が口出しすると応戦しきり。

米国に住む三歳の孫は、英語と日本語のチャンポンで、「おばあちゃんのハニーソープ、おもしろい。ゲラゲラ」「かくれんぼする者、寄っといで」とあっという間に隠れて、「あっかんべー」

四年生の孫は、ハリーポッターの愛読者、発売と同時にあの大作を一日で読破、英語の分からない私の通訳者でもある。二年生の孫は手芸好き、幼稚園年長の孫はダンス好きで、それぞれが個性豊かである。

一昨年、内郷小や千成幼稚園に体験入学させていただき、ジャパニーズ大好き人間。

今夏もみんなと交流できることを楽しみにしている。

六人全員、水遊びのとりこ。プールや海に行くと、あっという間に飛び込み、大歓声。

昨夏、湖に面する娘宅を訪ねたとき、起床と同時に、一日中、水着スタイル。

今夏もきっと、元気いっぱいの二か国語でのじゃれ合い、けんか、水しぶきを上げる孫たちの姿に見とれることだろう。

「孫と恋ふ
平和な世界今年こそ」

（宮前　鈴木　伶子）

こどもの目線

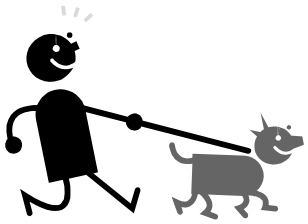
先日、佐倉市役所に行った時のこと。苦情を言うつもりはなかったが、日頃危惧している歩道の話題を提した。国道２９６号沿いに住民が歩くのは所謂「溝板（どぶいた）」の上、そこをガタガタと自転車が猛スピードで走り抜ける。一応、白線は引かれているが大型車でも来（こ）ようものなら間違いなく接触事故になる。しかし、担当者は「何度も上（あが）ってきていますよ。でもあれは国道ですから」とけんもほろろ。確かに旧佐倉の住民でない人に地元住民の不便さや切実さが届くはずもないが…ふと思った。しかも担当者は行政のプロだ。

この冷たい大人の目線ではなく、敢えてこどもの目線で考えたらどういうことになるだろうか。安全な市道は何処に？

そうだ久しく歩いていないが裏の道は市道のはず。狭いが舗装された道なりに続く閑静な住宅街…。いつも騒がしい声の主は何とも可愛らしい短足の留守番犬だった。その先の小さい空地には何と、この真冬に溢れるばかりのコスモスが満開で思わず歓声をあげた。この見慣れない通行人に笑顔で挨拶してくれる優しい道にすっかり魅了されてしまった。

こどもの目線でいつも新しい発見に瞳を輝かせる時、それはアンチエイジングの最強の味方なのかも知れない。

（田町　原　桂子）



地球の砂漠化・温暖化
（年頭に思ったこと）

今年は「砂漠と砂漠化に関する国際年」（二〇〇三年に国際総会で決議）とのことです。地球温暖化とともに、あるいは関連して地球規模で深刻化しております。国際的協力で防止策に対処していかないと、人間が住む地球環境が危機的状況になることは、科学者のみならず、多くの有識者から警告が発せられています。

一年間に地球上で砂漠化する面積は、九州と四国を合わせたぐらいの面積に及ぶとのことです（耕地面積の急速な減少による食料供給不足）。温暖化によるヒマラヤ氷河・北極・南極の氷の溶解による大洪水や海水面の上昇（陸地の減少）。地球に酸素を供給しているアマゾン熱帯雨林はじめ開発や木材・パルプ生産のため、各地での伐採による森林の減少（酸素供給不足）等々。

一九九六年に「砂漠化対処条約」が結ばれ、また一九九七年には、温暖化防止対策として「京都議定書」が採択されております。いずれも大国のアメリカが批准していませんが、一刻も早く地球規模で実効をあげていかないと「人類絶滅の危機」に直面するのも、そう遠い未来の問題ではないと考えられます。

地球の歴史の中で、地球上を闊歩していたあの恐竜が絶滅した氷河時代…その後地球に君臨している人類…

しかし、自国や自分の会社、自分の利益のみにしか目を向けず、また、各地で戦争などを続けている状況で「人類絶滅」は避けられるでしょうか。人間の叡知の発揮が、国際的規模で早急に求められているのではないでしょうか。

（ユーカリが丘　飯嶋隆哲）

雪の朝

一月二十一日の朝、音もなく静かに降り積もる雪に、北国育ちも驚いた。

雪の花は、繊細な感情の持主。激しくも美しく、温かく変化する。

北国の冬の地上は雪の花たちで飾られ、六花、雪華、不香花、銀花などと呼ばれている。

雪の結晶は、気温に合わせ、幾種類もの花模様を構成している。粉雪、牡丹雪、淡雪、晴れた日に降る風花との戯れと、雪は昔から人々の心をとらえてきている。

以前、越後湯沢での研究会を終え、帰宅してから、駅のホームに描かれていた「雪の結晶」のことが気がかりで、ＪＲ東日本新潟支社広報室に、電話で尋ねた。

『雪華図説』なのか、『北越雪譜』なのかと。

雪華図説は、下総古河の城主、土井利位（としつら）の一八三三年の作品。北越雪譜は、同じ頃の越後の鈴木牧之（ぼくし）著のもの。

土井利位は、佐倉城築城の土井利勝が、古河城主になってから九代目の城主と言う。

利位が雪の殿様と言われ、結晶の美しさを、衣類・菓子紙類迄にも描き流行させ、雪華の模様が、暮らしの中に広がった。また、利位もオランダに渡り顕微鏡（蘭鏡）で結晶の美しさを図にしたと言われている。

一方、北越雪譜には、雪害の恐ろしさを著し、雪国の暮らしと雪とのかかわりが、著れていると言われている。

越後湯沢の新幹線ホームの雪華の図は、日本道路デザイン部門企画室で、イメージしデザインした何点かの中から決めたと言う。

旅での出会い、ＪＲの心づかいが嬉しかったことなどが、消えかけていく雪の結晶を見て思いだした。

（井野　清澤　瞳子）

４月の黒板

★★★　『なかま』原稿募集のお知らせ　★★★

『なかま』の 2･3 面は、市内の皆様の投稿によって作られています。原稿は随時募集しています。

[原稿規定] 字　数　650 字（13 字×50 行）以内。ワープロによる原稿（縦書き）でも結構です。

内　容　随筆･･･日常の出来事、生活の中で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などご自由にお書きください。

◎ 『なかま』に対するご意見・ご感想などもお待ちしています。

◎ いただいた原稿は、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただくことがあります。

問い合わせ　佐倉市立中央公民館　（第 2・第 4 月曜日は休館日です）

URL　http://www.city.sakura.chiba.jp/kominkan/cyuuou/index.htm

さくら道

五年、十年前に佐倉に移り住んだ人や、二十年、三十年前から住みはじめた人たちの方が、以前からの佐倉市民より多くなった現在の佐倉。住んでみてはじめて気付いた歴史ある城下町と印旛沼をはじめとした美しい自然環境の町佐倉。

その佐倉市に住んで、いつか高齢者となり、仕事を離れ、第二の人生を如何に有意義に過ごして行こうかと考えている人たちがますます増えている佐倉市。「まちづくり」住み良い町。誰れもが健康で活気のある町。教育・福祉が行き渡った町。観光客に誇れる町。それを希望のままに終らせずに、市民皆で手を取り、一歩一歩先を目ざして歩いて行きたい。テレビやパソコンの前に座ってばかりいないで、なかまと一緒に先ず外へ出て歩いてみよう。あれもこれも、いろんなことが観えてくる。

ときあが

今年四月から介護保険法が改正され、従来の訪問介護サービスに代わって介護予防訪問介護や筋力向上トレーニングなどを内容とする新予防給付が新設された。

自分で家事ができるのに、ヘルパーがくると何もしなくなる人がいる。普段は歩いていて歩こうと思えば歩けるのに、車椅子があると乗ってしまい足の機能を低下させてしまう人がいる。

従来の制度を続けていくと介護保険の支払がさらに増え、介護を受ける人たちにとっても幸せにならない。要介護者も、もっと元気で過ごせるよう介護予防に力を入れていく。

筋力向上トレーニングなどは、一般に普及させて寝たきりにならないようにする。できるだけ介護保険を必要としないようにすることが、一番よいことだと思う。

（金井）